

(参考資料)

『日本農業経済学会』の概要

《学会名の英訳：The Agricultural Economics Society of Japan》

1 目的

本会は、農業経済に関する研究を行い、もって農業経済学と農業・農村の発展に寄与することを目的とする。

2 沿革

本会は、1925年(大正14年)に創立され、翌年、学会誌『農業経済研究』の刊行を開始し、第二次世界大戦中は3年間休刊したものの、毎年4号分を刊行し、現在第80巻を刊行するに至っている。『農業経済研究』誌は、わが国の社会科学系学会誌の中でも最も伝統あるものの一つである。なお、1999年(平成11年)からは、和文誌に続く第5号として英文誌『The Japanese Journal of Rural Economics』の刊行を開始し、日本国内のみならず、広く海外に向けての活動を広げつつある。また、1991年(平成3年)には東京で「国際農業経済学会(IAAE)」が開催され、これを後援するなど幅広く活動している。このように本会は80有余年の歴史を有する学会である。

3 主な活動内容

(1) 研究発表会及び学術講演会等の開催

年1回以上大会を開催し、シンポジウム、個別報告及びその他をあわせて実施。

(2) 機関誌『農業経済研究』、『日本農業経済学会論文集』、『The Japanese Journal of Rural Economics』の編集・刊行。

(3) 農業経済研究に関する優れた研究業績を公刊した本学会員に「日本農業経済学会賞」を授与。

(4) 国内外の関連学会と協力し、国際交流の推進。

(5) 日本農学会及び日本経済学会連合への加盟

(6) 農業経済に関する学術図書の発行

(7) その他、本会の目的達成に必要な事業の実施。

4 役員

別添のとおり。

5 会員数

本会は、国内外に、現在、1,500余名の会員を有している。

うち、正会員(約1,100名)は、大学、国、地方行政機関、農業団体などの職員、学生会員(約400名)は、大学の学部学生、大学院生などから成っている。